

## 【引越の苦勞】

Worries about Moving

## 後の祭り

工藤 莞司

昨年度末引っ越しを経験した。我が家ではなくて、4年間勤務した大学院を退き、研究室を明け渡したからである。僅かな期間ではあったが、広い研究用スペースが供与されて、これ幸いと自宅や事務所からも、書籍や判例集、その他の収集資料を運び込んだ。そんな話を聞きつけたらしい大先輩が、ご自宅で持て余していた資料を大量に送ってくれた。これらで、わが研究室も、一応それらしい雰囲気を出していたようである。

そして、年度末を迎えて引き上げなければならない。今更自宅に持ち帰るには多すぎる。色々思案した結果、判例集は無理矢理図書室に引き取って貰うことに成功したが、コピー資料は捨てることにした。大半は戦後の商標法と不正競争防止法の判決である。また、著者順に整理した論文のコピーもあった。現在では、前者はデータベースからインターネット上で取得できるし、後者の古いものは利用頻度はないと決めつけた。必要最小限の書籍等を持ち帰って引っ越しは終了した。

ところが、早速問題が生じた。必要な判決がデータベースに登載されていないのである。発明協会発行の『知的財産権判決速報』は最も収録範囲が充実したデータベースと思うが、それにも見付からない。また、昭和43年の最高裁判所判例解説も見たいが、捨ててしまっていた。大学図書館にはあった筈だが、八王子南大沢キャンパスで遠い。判決はようやく特許庁時代の元同僚を通じて入手した。前掲解説論文は先に拙稿に引用していたので孫引きし、校正時まで南大沢へ出掛け確認することにして、当面を凌いだ。

やはり、簡単に手放すべきではなかったと悔いて、引っ越しのせいだと嘆いているが後の祭りである。

## 何回しても引越が好き

遠藤 優歌子

私は今までに5回引越しをしました。中学生のときに家族で引越しをしたのが1回目、東京の大学に通うため、実家の京都から東京へ引越しをしたのが2回目。キャンパスが変わり、3回目の引越し。大学卒業後、実家に帰ったのが4回目。そして去年、また東京へ戻ってきたのが5回目の引越しとなりました。中でも一番苦勞したのが3回目の引越しでした。

まずは物件探しに苦勞しました。いくつもの不動産屋を回り、これはどうか、あれはどうかと紹介してもらいました。10件以上実際の物件に足を運びましたが、駅から5分以内、風呂トイレ別など、私の希望の条件が多いために、なかなか気に入る物件は見つかりませんでした。不動産屋の担当の方にも「どれか諦めてもらわないと・・・」と言われ、妥協するしかないかなと思っていたところに、希望の条件にぴったりの物件が空き、紹介してもらいました。とても住みやすい家だったので、粘り強く探した甲斐があったなと思います。

引越しの梱包作業にも苦勞しました。創英オフィスの引越しのように、計画的にテキパキとできれば早く終わることなのですが、私は卒業文集やアルバムなどが出てくると、なつかしいなあと思いながら読んでしまい、とても時間がかかりました。そして、なかなか物を捨てられない性格のため、身の回りの物が多いことも梱包に時間がかかった原因の一つです。普段から、長い間使わなかったものは思い切って捨てるなど、身の回りの整理整頓をしておくことも大事だと思います。

引越しに苦勞はつきものですが、私は引越しが好きです。どんなインテリアにしようかと考えたり、新しい町を探索することがとてもワクワクします。次の引越しはいつになるかわかりませんが、6回目の引越しのために身の回りの整理整頓はきちんとしておきたいです。

# 【引越の苦勞】

Worries about Moving

## 引越はリスタート

小出 有希

引っ越しの苦勞、とって思いつくものは何でしょうか。荷造りや移動の大変さ？それとも環境の変化でしょうか？引っ越しという行事は、物質的な移動の他にたくさんの要素を内包しています。いざ移動するとなると、まずそこらにあったものを全て把握することが必要になってきます。そして、次の環境でも必要なものを選び分け、多くのものを捨てる決断を迫られます。さらに、新しい環境において、速やかに生活なり業務なりを始められるように配慮することも重要です。要は計画的にすすめれば良いということですが、引っ越しの際の計画のみではうまくいかないこともあります。

転職の多かった私は、仕事をまとめ環境を変える“引っ越し”を何度も経験しました。その際私が最も苦勞することが多かったのが、PCや印刷物などのデータでした。こういったものは、見たその場で捨てる決断をするのが難しいためです。特に仕事の引き継ぎをする必要がある場合は、誰にもわかりやすいようにデータを整然とさせ、全ての説明ができるように自分が把握していなければなりません。そしてそれはもちろん、急にできることではありません。対策は普段からの心がけに尽きるのです。物や仕事の種別や収納についてのルールを決めること。そして小さな処理もルールに則りキッチンと記録すること。そうしていると、現状が把握しやすくなり、

さらに取捨選択する力が身に付きます。私が多くの“引っ越し”から得た秘訣は、結局は「普段からキッチンとすること」でした。10月、創英はビル内でのフロアの引っ越しをしましたが、目立った問題もなく業務を開始できたのは、創英のシステムがしっかりしているからに他なりません。

ところで、創英には転職という“引っ越し”を経験している人がたくさんいます。知力を武器とする技術者はそれぞれの経験を経て入社することが多いようですし、事務の女性社員も新卒より他での社会経験がある人が多いようです。私のイメージする「引っ越しの苦勞」には、転職による新しい環境というものもあります。

私は「就職難で失われた世代」と言われる所謂“ロスジェネ”世代です。私の場合も、“手に職”をつけたものの同じ会社でキャリアを積むことが叶わず、必死の転職をくり返しました。“ロスジェネ”は現在の30歳前後が該当しますが、近年はその年齢層の雇用も高まっていると聞きます。しかし、年齢が上がるほど新しい環境を受け入れにくくなる、という問題もあります。自分で望んでやっと採用された転職先でも、新しい会社のやり方を素直に受け入れられなかったり、以前のキャリアを引きずってしまい苦戦したりするのです。私も転職先で苦勞した経験がいくつかありますが、今思うと、過去のやり方や

re\*start 経験にとられる自分に苦しめられたように思います。転職であれ、“引っ越し”によって環境が変わった時に大事なことは、何より自分が新しくなることかもしれません。

創英という会社に“引っ越し”をした私は、新人としては若いと言えなくなりましたが、苦い経験から学んだことを生かし、まっさらな状態から経験を積もうという気持ちでいます。これから学ばねばならないことも多いけれど、前向きに自分を励ましつつがんばっていきたいと思います。



## 【引越の苦勞】

Worries about Moving

### 事前のチェックを怠ったばかりに…

K. M

2007年の夏頃、私は横浜から流山へ引っ越しをしましたが、引越しの計画時、私は前職の仕事が酷く忙しい状態で、私的な時間をほとんど確保できないのを理由に引越しの準備を怠り、面倒な目に合っていました。

引越し当日、暑い中の引越して疲れきっていた私は、とりあえず荷物を放置して、シャワーを浴びて寝てしまいたいと考えましたが、引越しの準備を怠ってしまったツケがここにまわって来てしまいました。

新しい部屋は水道、電気は使用可能になっていましたが、ガスはまだ通っていない状態でした。シャワーを浴びるためにはガスでお湯を沸かす必要がありますので、ガスを使用可能な状態にしてもらう必要がありました。

本来ならば引越し前にガス会社に連絡をとっておいて使用可能にしておいてもらうものですが、引越しの準備を怠っていた私は、そのことを全く考えていませんでした。

ガス会社に電話したところ、本日は営業していないので、明日の朝まで待って欲しいと言われました。銭湯を探し出そうともしましたが、引越し先はあたりを見回しても近くには店らしいものが見つからず、シャワーを明日の朝まで我慢することにしました。

シャワーを諦めて、布団を広げて寝ようとしているところで、また新しい問題に気がつきました。部屋にはカーテンがありませんでした。

また、部屋は1階にあり外から部屋の中を簡単に

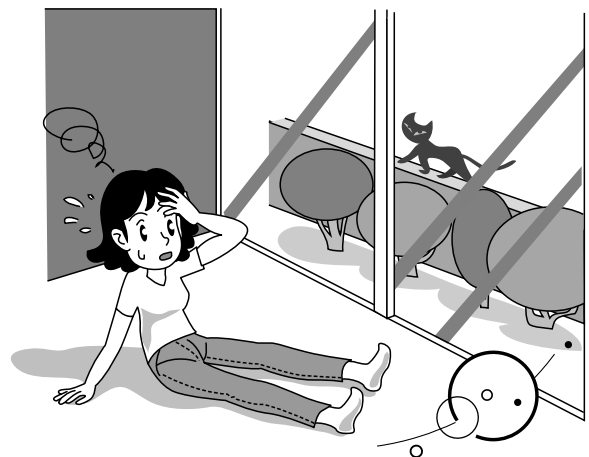
覗き込める状態でした。前の部屋はカーテンが備え付けであったため、カーテンのことは完全に盲点になっていました。

何か別の手段でカーテンの代用を考える気力もありませんでしたので、その日は気にせずに寝てしまうことにしました。

結局、カーテンを手配するためには部屋の寸法を測って、オーダーで注文する必要があるため、引越しをしてから2週間、カーテン無しの生活を送ることになってしまいました。

引越し翌日の朝、ガスを開通してもらい、これでやっとシャワーを浴びて寝られる事を期待して蛇口をひねりましたが、今度はガス給湯器が壊れていました。家主である業者のサポートセンターに電話して、急いでガス給湯器の職人さんを手配してもらい、その日の昼にやっとシャワーを浴びることができました。

ガスや、カーテンなどの引越しの注意な事項はチェックリストを作成して事前にチェックしておくべきでした。



# 【引越の苦勞】

Worries about Moving

## 引越体験記 in 岡山

能勢 美鈴

10月、創英でも大きな引越がありました。引越しには何かと苦勞がつきものです。かくいう私も千葉県の農村地域(実家です)と関西地方よりもさらに西にある岡山県(私にとっては外国も一緒のようなものです!!)というマイナーなルートを通っての往復の大移動を経験し、引越して苦勞をした一人であります。そこで、これから私の体験談を披露させていただきつつ、引越しの苦勞について思うところを少しお話させていただきたいと思います。

まずは何より、引越しにはお金がかかるということです。新しく一人暮らしをするには、最低限必要なものを買揃えなくてはなりません。クオリティにこだわっている場合ではないと思いつつも、どうせならいいものを、と考えると自分の気持ちの弱さに、お財布が悲鳴を上げ、引越後の私は儉約生活を強いられたのでした。

引越しも行きはまだよいです。新居探しや部屋のインテリアを考えたり、大変ですが楽しく感じられることのほうが多いからです。ところが、帰り(出戻り)は荷造りにしろなんにしろ苦勞が増したように感じられたものでした。

戻りの引越で最初に考えたのは、部屋の退去日、つまり引越のXデーをいつにするかということでしょうか。果たしてどのくらいの日にかあれば引越前のあのまっさらな部屋にすることができるのか、しかも一人、この遠く岡山の地で、見当も付きませんでした。荷物は持ってきた大荷物に加えどんどん増えていきますので、戻りは荷物をまとめるにもさらに時間がかかりそうです。心配性の私は少しゆとりを持って期限を設けることにしました。

引越しの業者さんを決めるのも、それはもう一苦勞でした。なにせマイナーなルートの大移動ですから懐具合も気になるところです。そこで私がとった

行動は(大きな声では言えませんが、)近くの電話ボックスに行き、タウンページから運送会社のページを少々拝借させていただいたということです。(公共物を、大変申し訳ありませんでした。)3、4枚ほどの薄っぺらな紙を握り締め、急いで電話ボックスから逃げ帰ったことが昨日のことに思い出せます。翌日フリーダイヤルで片っ端から電話をかけ、一番費用の安かった某引越し会社に正式にお願いしたときにはすでに半日が経過しておりました。

最後に、よく遠足は家に帰るまで終わりではないから気を緩めないようにと言いますが、無事に実家に荷物が届けられるまではどこか安心できないものでした。安い引越し会社を選んだために、どこかの経由地に荷物を置き忘れられてやしないか、はらはらしたのも事実でございます。今も足りない部品かなにかあったとしても一息がつかないだろうとは思いますが。

いろいろ言い連ねて参りましたが、引越しには何かと苦勞がつきものではありますが、住まいが変わるのは心機一転できて楽しいものです。機会があれば私もまた、と思う今日この頃です。

